

貸借対照表

令和8年3月31日

(単位:円)

資産の部	
科 目	金 額
固定資産	3,320,962,900
土地 建物 構築物	2,945,655,899
教育研究用機器備品等	60,016,131
その他	315,290,870
流動資産	1,427,114,274
現金預金	1,415,745,694
その他	11,368,580
資産の部合計	4,748,077,174
負債の部	
科 目	金 額
固定負債	0
長期借入金	0
流動負債	552,874,145
未払金	88,250,842
その他	464,623,303
負債の部合計	552,874,145
純資産の部	
科 目	金 額
基本金	4,916,741,924
繰越収支差額	△ 721,538,895
純資産の部合計	4,195,203,029
科 目	金 額
負債及び純資産の部合計	4,748,077,174

事業活動収支計算書

自 令和7年4月 1日

至 令和8年3月31日

(単位 :円)

		科 目	残 高
教育活動収支	事業活動 収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金	(570,463,000)
		手 数 料	(3,980,200)
		経 常 費 等 補 助 金	(66,493,000)
		付 随 事 業 収 入	(5,433,426)
		雑 収 入	(10,928,810)
		教 育 活 動 収 入 計	(657,298,436)
	事業活動 支出の部	人 件 費	(327,519,516)
		教 育 研 究 経 費	(232,124,066)
		管 理 経 費	(114,188,418)
		教 育 活 動 支 出 計	(673,832,000)
	教 育 活 動 収 支 差 額		△ 16,533,564
教育活動外収支	事業活動 収入の部	受 取 利 息 ・ 配 当 金	(4,072,348)
		その他の教育活動外収入	(0)
		教 育 活 動 外 収 入 計	4,072,348
	事業活動 支出の部	借 入 金 等 利 息	(0)
		その他の教育活動外支出	(0)
		教 育 活 動 外 支 出 計	0
	教 育 活 動 外 収 支 差 額		4,072,348
経 常 収 支 差 額		△ 12,461,216	
特別収支	事業活動 収入の部	資 産 売 却 差 額	(19,997)
		そ の 他 の 特 別 収 入	(0)
		特 別 収 入 計	19,997
	事業活動 支出の部	資 産 処 分 差 額	(0)
		そ の 他 の 特 別 支 出	(0)
		特 別 支 出 計	0
	特 別 収 支 差 額		19,997
基 本 金 組 入 前 当 年 度 収 支 差 額		△ 12,441,219	
基 本 金 組 入 額 合 計		△ 5,432,830	
当 年 度 収 支 差 額		△ 17,874,049	
前 年 度 繰 越 収 支 差 額		△ 707,192,678	
基 本 金 取 崩 額		3,527,832	
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額		△ 721,538,895	
(参考)			
事 業 活 動 収 入 計		661,390,781	
事 業 活 動 支 出 計		673,832,000	

財産目録

令和8年3月31日

I 資産総額	4,748,077,174 円
内 基本財産	3,007,837,133 円
運用財産	1,740,240,041 円
II 負債総額	552,874,145 円
III 正味財産	4,195,203,029 円

区分		金額
資産額		
1 基本財産		
土地	2,996.78 m ²	1,871,550,408 円
建物・構築物	10,071.61 m ²	1,074,105,491 円
教育研究用機器備品	684 点	60,016,079 円
その他		2,165,155 円
2 運用財産		
現金預金		1,415,745,694 円
その他		324,494,347 円
資産総額		4,748,077,174 円
負債額		
1 固定負債		
長期借入金		0 円
2 流動負債		
その他		552,874,145 円
負債総額		552,874,145 円
正味財産(資産総額－負債総額)		4,195,203,029 円

令和7年度 事業報告書

大阪府吹田市垂水町3丁目29番18号

学校法人大阪創都学園

キャットミュージックカレッジ専門学校

大阪アニメーションカレッジ専門学校

06 (6369) 5164

令和7年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校

キャットミュージックカレッジ専門学校と、大阪アニメーションカレッジ専門学校の2校を設置する。

(2) 設置する学校の学科

① キャットミュージックカレッジ専門学校

《 専門課程 》

【昼間部】

- 総合学科
- ミュージシャン学科
- ダンス学科
- 音楽技術学科

《 別科 》

【昼間部】

- 専攻科
- ミュージックカレッジ科
キャットエンタテインメントスクール
リトルキャット

② 大阪アニメーションカレッジ専門学校

《 専門課程 》

【昼間部】

- 総合学科
- 声優学科
- アニメーション学科
- マンガ・イラスト学科

《 別科 》

【昼間部】

- IT技術コース
- クリエイター専攻コース

(3) 入学定員と入学者数の状況

① キャットミュージックカレッジ専門学校

令和7年5月1日現在

課 程	学 科	修業 年限	入学定員	入学者数	備考
文化・教養 専門課程	総合学科	3 年	30 名	30 名	
	ミュージシャン学科	2 年	40 名	40 名	
	ダンス学科		30 名	14 名	
	音楽技術学科		45 名	40 名	
合 計			145 名	124 名	

② 大阪アニメーションカレッジ専門学校

令和7年5月1日現在

課 程	学 科	修業 年限	入学定員	入学者数	備考
文化・教養 専門課程	総合学科	3 年	20 名	43 名	昼間
	声優学科	2 年	50 名	16 名	
	アニメーション学科		20 名	16 名	
	マンガ・イラスト学科		40 名	31 名	
合 計			130 名	106 名	

(4) 教職員の状況

① キャットミュージックカレッジ専門学校

令和7年5月1日現在

区 分	専 任	兼 任	計
校 長	1	0	1
教 員	1 9	6 4	8 3
助 手	3	3 2	3 5
事務職員	3	0	3
校 医	0	0	0
計	2 6	9 6	1 2 2

① 大阪アニメーションカレッジ専門学校

令和7年5月1日現在

区 分	専 任	兼 任	計
校 長	0	1	1
教 員	1 8	3 6	5 4
助 手	2	1 4	1 6
事務職員	0	0	0
校 医	0	0	0
計	2 0	5 1	7 1

(5) 役員 (令和8年3月31日現在)

理事長	鈴木 雅文
理 事	石角 公宏
理 事	井原 延治 (学校長)
理 事	城 将敏
理 事	杉若 彰一
理 事	鈴木 玲子
監 事	三岳 博隆
監 事	濱口 佳工

2. 事業の概要

学校を取り巻く環境は、ポストコロナにおける社会経済活動の正常化が定着し、令和6年度から令和7年度にかけた日本経済は、緩やかな回復基調を維持しております。しかしながら、長引く物価上昇の高止まりは依然として家計消費や消費者心理に根深い影響を与えています。このような状況の中、18歳人口の減少に伴う専門学校入学者数の減少傾向は一段と進んでおり、特に地方における定員割れの問題など、業界全体が直面する危機はますます深刻化の一途を辿っています。

特に、近年大学側が高度な実践教育や業界直結型のカリキュラムを相次いで打ち出し、自校の特色化を進めて生き残りを図る中、私たち専門学校業界におきましては、大学との差別化を明確にし、より一層業界と緊密に直結した独自性のある学校運営を行うことが、まさに「選ばれる学校」であり続けるための喫緊の最重要課題となっております。

このような激動の状況下において、本学園は個性、才能、技術を最大限に生かしていく教育機関として、学生一人ひとりと真摯に向き合い、変化の激しいエンタテインメント業界で即戦力として活躍する人材の育成はもとより、豊かな人間性を備え、社会人として自立できる人材の輩出に全力を注いでまいりました。

(1) キャットミュージックカレッジ専門学校

音楽業界直結の教育システムを採用し、長年の実績に培った教育カリキュラムを用いた教育をおこなう一方で、外部の著名講師を招いて授業を実施しています。

さらに、第一線で活躍中のアーティストによるクリニックや、社会の現場での実務経験を通して生きた技能を身に着けるための企業研修制度など、音楽業界の専門家から直接学べる機会を用意しています。

常任のレギュラー授業の講師は、音楽業界で活躍するプロフェッショナルであり、レベルの高い授業を実施し、音楽の実践現場に近い密度のある教育を行っています。これにより、業界に適した人材を輩出してまいりました。

また、学生一人ひとりの個性・才能・技術に的確に向き合えるよう、担任制を強化して取り組んできた結果、学生個々のニーズに応えることができ、高い進級率を維持しています。就職についても、業界就職を希望する多数の学生が業界に進出することができました。

(2) 大阪アニメーションカレッジ専門学校

開校22年を経て、多くの卒業生を輩出し、着実に業界とそのネットワークを広げてまいりました。第一線で活躍中の声優、アニメーターによる特別授業、業界の現場での実務経験を通して生きた技能を身につけるため、企業と連携した授業など、エンタテインメント業界の専門家から直接学べる機会を用意しています。

また、多数の高等学校に対し本校講師を派遣するなど、高校生の多方面にわたる学生支援を行う一方で、埋もれている人材の発掘にも努めてまいりました。

さらに、アニメーションの国際化を鑑み、主としてアジア圏の学生に門戸を開き、国際的視野に立った人材育成にも力を入れています。

このように、エンタテインメント業界を目指す人材を育成する学校グループとして、業界における特色を持ち、CATグループとしての第二創成期の基礎づくりを行ってまいりました。これに加え、現在は成長期に突入し、さらなる発展を目指して教育プログラムの充実や業界との連携を強化しています。この成長期を通じて、より多くの学生に質の高い教育を提供し、エンタテインメント業界で活躍できる人材を輩出することを目指しています。

キャットミュージックカレッジ専門学校及び大阪アニメーションカレッジ専門学校両校では、高等教育の修学支援新制度の認定校となっております。学生が同制度を利用することで、学生への経済的安定を助けており、経済的支援があることで学生は学業に集中しやすくなっています。その結果、学びの質が向上し、学生が実践的なスキルを身につける機会が増え、就業に直結する教育を受ける環境が整っています。

3. 財務の概要等

財務の概要につきましては、財産目録・貸借対照表・資金収支計算書・事業活動収支計算書に記載のとおりであります、その主な内容は以下の通りです。

事業活動収支では、法人傘下の両専門学校におきまして、令和7年度募集がキャットミュージックカレッジ専門学校は昨年からプラスに転じ、大阪アニメーションカレッジ専門学校も、昨年対比でプラスとなったため、学生生徒等納付金は570百万円となりました。教育活動収入合計は、授業料等減免費補助金を合わせて657百万円となりました。

一方、支出面におきましては、緊迫する国際情勢を背景とした原油価格の上昇や為替市場における円安の進行が、エネルギー費用や各種原材料、輸入資材の価格高騰を招いており、物価上昇に伴う学校運営コスト増加が経営の大きな課題となっています。

このような中、節電等も含めた経費節減に努めつつも、教育の質を維持・向上させるために必要な教育研究用備品の更新を計画通り進めた結果、教育活動支出の合計は奨学金を含めて673百万円となりました。その結果、教育活動収支差額が▲16百万円となりましたが、これは主に外部環境による物価高騰の影響と、次世代への教育投資を優先したことによるものであります。

このような厳しい財政環境の中にあっても、健全な法人経営と安定した教育環境の構築を長期的に維持するため、当法人では抜本的な収支構造の見直しに着手しております。

当法人の学費につきましては、平成8年の改定以来、長年にわたり据え置きを維持してまいりましたが、誠に苦渋の決断ながら、令和9年4月入学生より学費の改定（値上げ）を実施させていただくことといたしました。このたびの改定により確保される財源は、さらなる教育・研究環境の充実に直結させることはもとより、経常的な赤字解消に向けた確実な原資として充当してまいります。今後とも、一層の経営効率化と経費抑制に全力を尽くし、早期の収支バランスの健全化を図ってまいります。

また、貸借対照表では、建物・構築物が1,074百万円、教育研究用機器備品等が60百万円となり、借入金につきましては、その後新たな借入れは行っておりませんので、無借金経営が継続されています。期末現在の純資産残高は、4,195百万円となりました。

今回の令和7年度募集におきましては、コロナ禍の影響が緩やかに回復し、エンタテインメント業界の冷え込みも少しずつ戻りつつある中、対策をしっかりと練り直して臨んだ結果、上記のような成果を収めることができました。今後とも、掲げる目標の達成に向け、教職員全員が一丸となって教育活動収入の増加に努めるとともに、教育活動支出については合理的な執行を徹底し、学校の安定的な経営基盤を維持するため、一定の収益確保を目指して健全な学園運営を行ってまいります。

4. むすび

学校法人大阪創都学園は設立から38年の節目を迎え、次世代の教育を担うものとして、永続的かつ健全な学校運営を行っていくことを最重要課題と考えております。当法人が運営するキャットミュージックカレッジ専門学校および大阪アニメーションカレッジ専門学校は、CATグループの中核として、質の高い実践教育を提供する一方、変革の著しい業界が求めるクリエイティブな人材の育成に邁進し、エンタテインメントを軸とした専門学校グループとしてさらなる発展を目指してまいります。

学生、保護者の皆様、並びに債権者、関係者の皆様におかれましては、本学園の取り組みに深くご理解をいただき、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

以上

監 査 報 告 書

学校法人 大阪創都学園

理事長 鈴木 雅 文 殿

令和 8年5月22日

監 事 濱 口 佳 工

監 事 三 岳 博 隆



私たちは、私立学校法第52条第3項の規定に基づき、令和7年度（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）の学校法人大阪創都学園の業務及び財産の状況について監査を行いました。

監査の結果、学校法人大阪創都学園の業務及び財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められませんでした。また、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は学校法人の財政状態及び経営状況を、事業報告書は学校法人の状況を、法令若しくは寄附行為に従い正しく示していることを認めます。

以 上